時事新報

斷じて阿片を嚴禁す可し

今回政府が二十九年度の追加豫算として議會に提出したる臺灣の歲出入を見るに守備隊及び憲兵隊費六百何十萬圓は姑く別として收入六百六十八萬餘圓、行政費六百三萬餘圓にして差引き六十五萬餘圓の殘額を生ずる割合なり此豫算は眞の概算に過ぎざれば實際の事に當りては大に齟齬することある可しと雖も兎に角に初年の計算にして斯の如し五年十年の後には守備隊の經費を差引くも尙ほ餘りあるに至る可し經濟上賀す可きに似たれども然れども阿片拂下代を歲入の重なる一項に計へたる一事に至りては我輩の徹頭徹尾反對する所なり

抑も臺灣の經營は目下の急務なれば全嶋民をして一刻も早く我治化に浴せしむるを第一とし歲入歲出の得失如何は第二として出來得る限り內地同樣の政令を布く可き筈なるに如何に事情忍ざるものあればとて現に國法に之を禁ずるのみならず文明諸國に於て一般に害毒と認むる阿片の喫烟を公然官許し政府自から之を賣買して其利を收めんとするに至りては沙汰の限りと云はざるを得ず當局者の說に據れば俄に喫烟を嚴禁することは到底目的を達する能はざるのみならず假令ひ嚴禁するも支那船にて密輸入するときは之を取締るの道なきを以て既に惡習に感染して阿片癮（俗に云ふよい〳〵）に罹りたるものに限り鑑札を與へ衞生的藥用として喫烟を許し分量を定めて其價は支那內地の賣買よりも安く拂下ぐることゝなし二十歲以下にて未だ惡習に染まざるものは法律を以て之を嚴禁せば次第に喫烟者の數を減じて三十年の後には全滅に歸す可しと云ふに在り如何にも請取りがたき說にして同意する人も少なかるべしと雖も閉會の期既に切迫して何事も政府案の通過を急ぐ今日の議會なれば差當り注意を促さんに臺灣全島の人口は三百萬內外に過ぎざれども各村に就て戶籍を調査するさへ尙ほ容易ならざるに一々その身體を檢査して中毒の淺深を測量せんとするは海岸に出入する支那の密商船を取調ぶるより一層の困難にして手數の面倒なるは豫想の外なる可し殊に阿片の中毒は割合に婦人に多きの常にして其婦人は一室に在りて外出せざるのみか日本人などには面接するさへ好まざるの風なれば身體を改められ毒の有無を檢せらるゝよりは寧ろ死刑に處せらるゝの優れるに如かずと覺悟するもの少なからざることならん手數の容易ならざるは我輩の斷言する所なれども假りに其手數は無造作なりとして實際に下渡したる一枚の鑑札が二枚にも三枚にも通用するの要は如何にして防ぐ可きや嶋民の中には定りたる住所とてはなく朝には人に雇はれて驅役に應じ夕には他人の軒下に夜を明かし暇あれば到る處の寺院もしくは祖廟に入りて阿片を喫するもの多きの例なるに一々これを追跡して鑑札の有無を糺すが如きは實際に非常の困難なりと知る可し

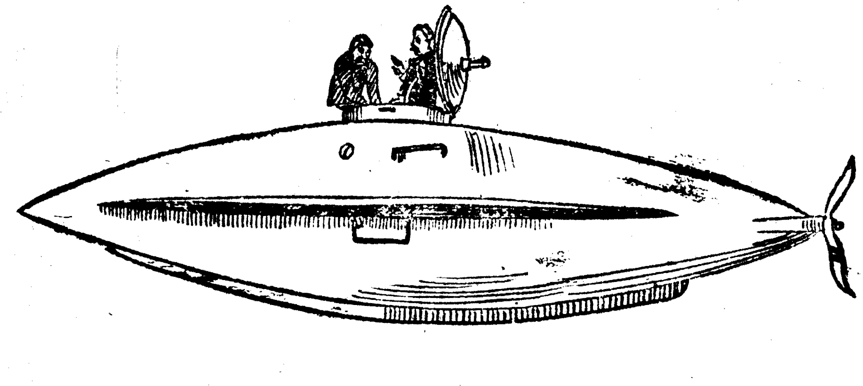
且つ又阿片を喫するものは日に月に其分量を增し慣るゝに從て下戶も上戶となる其趣は飮酒家が次第に酒量を增すものに異ならず鑑札の所持者は能く其定められたる分量にて終始滿足す可きや否や、彼等は來客ある毎に喫烟を勸むるを以て日常の禮と爲し共に喫し共に樂むの習慣なるに一旦嚴禁に遇へばとて人目のなき密室の中にて來訪の朋友知己が之を求めんとするに切なるを見ながら鑑札所有の主人のみ獨り喫して他に飮用を許さゞるの勇氣あるや否や、彼等は常に阿片の有害有毒にして之を喫する時は身體も衰へ財產も失ふことを仔細に承知しながら自からも好んで喫し人にも强ひて勸むる程の橫着者なれば一方には公然喫用を許可せられたる者あるを傍觀しながら果して其慾を絕つの決心ある可きや否や、彼等の阿片を喫するは啻に其嗜慾を滿さんとする爲めのみに非ず一時の病苦を忘れんとするものこそ多き常なるに例へば夫妻ともに許可を得て枕を並べて之を喫する其傍にたま〳〵愛兒が病に罹りて苦痛に堪へざる有樣を目擊しながら二十年以下のものなりとて斷じて喫用せしめざるを得べきや否や是等の數項は我輩の言を俟たずして其成行甚だ明白なる可し

要するに當局者の考は一種の制限を設けて喫烟を許す其代りに阿片は一切政府の專賣と爲し輸入品よりも廉價にて賣渡すときは一方には密輸入を防ぎ一方には或る年限の中に喫烟者の跡を絕つに至る可しとの趣向なれども前述の如く既に喫烟を許せば惡習の傳播は到底留む可らずして政府賣渡の定量のみにて不足を感ずるは勿論、又その價の如きも彼等に取りては生命にも換へ難き程の嗜好品なれば些々たる相違は問ふに遑あらずます〳〵之を需用する其需用は必ず密輸入を促して賣渡品と輸入品と兩々相行はれて恰も前後の兩門より一時に虎狼を入るゝの姿を呈します〳〵害毒を逞ふするは數の睹易き所なり當局者にして果して阿片の有毒を認めたる以上は斷然嚴令を發して喫烟を禁じ苟も犯すものは用捨なく罰に處すると同時に密輸入の取締も嚴重にして其毒源を絕たざる可らず我輩は斷然これを嚴禁するも尙ほ惡習の止まざらんことを恐るゝものなるに若しも公然喫用を許可したらんには底止する所を知らずして今年の鑑札所持者は何千人なりしに明年は何萬人となり啻に其數の減少せざるのみか三十年の後には阿片の拂下代幾層倍の多きに至る其代りには日本人にも次第に惡習を傳へて容易ならざる結果を見るに至る可し今より豫想するも尙ほ寒心に堪へざる所なれば我輩は斷然嚴禁の處分に出で豫算の中阿片拂下代の一項を削除し其製藥費の如きは喫烟者の取締幷に密輸入の防禦費に供し尙ほ足らざるときは更に大に支出しても必ず其目的を達せんことを主張するものなり或は年來の中毒にて既に阿片癮に陷りたる者に對し斷然喫烟を禁ずるときは其死を促すと同樣にして情に於て忍びざる所なりなど云はんかなれども自から病を求めたる半死半生の患者を保護するが爲めに其毒を健康の人民に傳ふるのみならず內地にまでも餘波を及ぼし百年の患を遺すが如き我輩の大に忍びざる所にして其少しく忍ぶは即ち小の蟲を殺して大の蟲を助くるの手段にこそあれば現在の中毒者の如きは彼等の自業自得として斷じて顧慮するに及ぶ可からず改革を徐々にして嶋民歡呼の間に其弊を除かんとするが如きは到底實際に行はるべき談に非ず事を議するものゝ熟考す可き所なり

雜報

○佛國の新發明潛水船

佛國の有名なる海軍技師グーベー氏の今度發明せる潛水船は眞鍮を以て作り其形圖の如くにして同國海軍省は之を採用することに決したるよし其長さは二丈四尺幅は五尺少餘、入口は頂上に唯一つあるのみにて一す餘の眞鍮板を以て蓋ひ水中七百五十尺乃至九百尺の深きに沈むを得べし其進行は電動機と連絡せる螺旋より生ずる力を以てし一時間に七海里より八海里の間を進み重量は漸く十噸なれば之を取扱ふに至極輕便なり又船內へ光線を通ずる爲め所々に穴を穿ち九分の厚さある硝子にて之を塞げり又船中には三人を容るゝに足り



空氣は鋼鐵のタンクに盛り有害なる空氣は喞筒にて排出するの工夫備れり尙ほ其水中に出入するは容易にして船の中に水を盛れる器を置き水面へ浮み出でんとする時は其水を減じ沈まんとする時は之を增加するのみにて若し不意に出來事起り機械の損ぜし節は自然に浮み上るの仕掛なり殊に從來の潛水船は水中に在りて水面に在るものを見る時に當り遠近の度正確ならざりしがグーベー氏の發明せるものは船中の甲板に望遠鏡を備へ透鏡の配置次第にて自由に遠近に應じ得れば右の欠點を除けりと云ふ

○船舶の增加

日淸戰爭以來我が船舶の增加せしは何人も知る所なるが戰爭前後の船數及び噸數を比較すれば左の如き增加を見る

		船數	總噸數
廿七年五月末	汽船	四一七	一八一、八一九
	帆船	二一二	三三、五五三
	合計	六二九	二一五、三七二
同年十二月末	汽船	四六〇	二六二、三五九
	帆船	一九六	三二、一〇三
	合計	六五六	二九四、四六二
廿八年十二月末	汽船	五二八	三三一、三七三
	帆船	一七三	二九、三二二
	合計	七〇一	三六〇、六九五
本年一月末	汽船	五二六	三三二、二五三
	帆船	一七一	二九、一一二
	合計	六九七	三六一、三六五

右の如くにして現
なしと云ふ本年一
月末より增加せし
は減じ汽船は大に
千九百九十三噸の
船會社及び同社に
と

郵船會社所有
陸海軍省所有
合計

小說　駒

第

酒を嗜き女を好み
は決して惡きもの
嗜くのみにて、決
ず、如何なる前世の
人を欺して、手練
手際を働らかせる
放蕩とは、若い元
欺される人が馬鹿
とは後生の恐ろし
與れたる檀那寺の
らしく吾への壁訴
子を持つた手に酒
の流るゝを知らぬ
が浮世なり。
さればこそ取締の
嬲るが如く嘲るが如
「貴君を男に生し
も女で其口前が
となつて、全盛な
と言ふ、成程落附
銜いていづる雛人
何にすれば厚顏し
君子も其道を以て
況して多寡が女一人
居る事なれば、忽
夢中の足元を附け込
けれども、吾も近
向いて來りければ、
して金を引出す必要
より、今の內に家內
備へをなすに越す事
夫よりは時寄りの通
り、町子よりは先づ
御土產とて差出す菓
を釣らんとは、借も
町子と馴始めてより
三五の限無き宵に、
とて町子はいそ〳〵
「今日は麻布の金田
見取れてはいけま
と、口前の木戸に我
いふは、町子が母方の
中、十本の指の六七本

各地汽車發

[illegible]